

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	人文学部
学科・専攻等名	言語文化学科
コース等名	日本語文化論コース

学部(学科)の教育目的(具体的に記述・箇条書き)		コースの教育目的(具体的に記述・箇条書き)	
学部の教育目的:時空の広がりの中における人と社会(世界)の営為を根底から問い、それを的確に表現できる人間を養成する。 学科の教育目的:言語・文学・文化の諸相を探究し、それを的確に表現できる人間を養成する。		表現手段としての日本語、芸術表現化された日本文学の分析を通して、日本語の表現の特質や働きを探究し、日本語と日本文化への深い理解を目指す。	
言語文化学科:言語・文学・文化の諸相を探究し、それを的確に表現できる。		= 特に重要な事項、 = 重要な事項、 = 望ましい事項	
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	1、日本の文学作品の読解を通して、日本人のあり方と日本文化の特質を把握できる人材を養成する。 2、日本語の特質と機能についての理解を深めて、自己を含む人間と社会を日本語で多角的に分析し、豊かに表現する能力を養う。 3、国際社会に貢献できる日本語によるコミュニケーション能力を備えた人材を養成する。
日本語学Ⅲ	～語彙(1)～ 日本語の「語彙」について考察する。	日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。	
日本語学Ⅳ	～語彙(2)～ 日本語の「語彙」について考察する。	日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。	
日本語史	日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴の理解を深める。	日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。	
日本語史	日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴についての理解を深める。	日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。	
日本語学特殊講義	日本語の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。	日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。	
日本語学特殊講義	日本語教授法として考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。 特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を扱う。	1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にす。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。	
日本語学特殊講義	前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性など。日本語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。	1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。 3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。 4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。 5、その他	
日本語学特殊講義	～待遇表現(1)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。	日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。	
日本語学特殊講義	～待遇表現(2)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。	日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。	
日本語学特殊講義	本授業では、方言研究の中で未開拓分野である「習得と運用」を取り上げる。まず習得の様相を説明する。次に方言と共通語の運用の実態を分析し、それぞれがコミュニケーションにおいてどのように機能しているかを考察する。	1)方言と共通語の習得と運用に関する研究課題を理解し、関心をもつ。 2)コミュニケーションにおける方言と共通語のはたらきを理解し、関心をもつ。	
日本語学講読	万葉集の巻八～十所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。	古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。	
日本語学講読	一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。	1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。 2、すでに発表された論文でも批判的に読む。 3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。 4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。	

日本語学講読	日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。	1、異文化とは何か考える。 2、自分とは何かを考える。 3、イメージとステレオタイプについて考える。 4、人と出会うということについて考える。 5、人とコミュニケーションすることについて考える。 6、非言語コミュニケーションについて考える。 7、価値観の相違を考える。			
日本語学講読	～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で講読する。	古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。			
日本語学講読	～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で講読する。	古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。			
日本語学演習(4年生)	4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。	卒業論文の中間発表などの指導・助言を通じて卒業論文の完成を目指す。方言調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す。			
日本語学講読	前半は前期の継続。後半は「日本語地図」に見られる方言地図の分布について、その分布形成の過程の解明を試みる。	方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横に平面に分布している。方言分布の解釈から、日本語の語史を明らかにする。			
日本語学演習	狂言資料としての、鷲流の山口大学樓息堂文庫所蔵本を読む。中世日本語の語彙等の表記について考える。	山口大学樓息堂文庫所蔵本の本文の表記の確認、鷲流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考察する。			
日本語学演習	狂言資料としての、鷲流の山口大学樓息堂文庫所蔵本を読む。中世日本語の語彙等の表記について考える。	山口大学樓息堂文庫所蔵本の本文の表記の確認、鷲流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考察する。			
日本語学演習(4年生)	4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。	卒業論文の意義などの指導・助言を通じて卒業論文の課題を決定する。調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す			
日本語学演習	卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の事例を検討しながら進めていく。	1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。			
日本語学演習	卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。	1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。 2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。 3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。 4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。 5、参加者の前で資料に基づいて発表する力:プレゼンテーション能力をつける。			
日本語学演習	～平安後期文学の語法・語彙(1)～平安後期物語「堤中納言物語」を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。	平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。			
日本語学演習	～平安後期文学の語法・語彙(2)～院政期成立の女流日記文学「讃岐典侍日記」を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。	平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。			
日本語学演習(4年生)	～卒論演習(1)～ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。	学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。			
日本語学演習(4年生)	～卒論演習(2)～ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。	学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。			
日本文学概論	日本文学の孕む問題とその研究方法について、古典文学を対象に講述する。	日本文学研究の基本的な概念や技法について習得し、研究・考察する力を養成する。			
日本文学概論	日本文学の孕む問題とその研究方法について、古典文学を対象に講述する。	日本文学研究の基本的な概念や技法について習得し、研究・考察する力を養成する。			
日本文学史V	本年度は日本近代文学史を講述する。時間的な制約もあって、主として散文(小説)について多くの時間を割くことになるかと思うが、できるだけ、韻文(詩、短歌、漢詩、俳句)についても言及したいと思っている。 以下、触れる予定の項目を挙げておく。ただし、その時々事情(たとえば、新資料の発見等々)によって、順序が変わったり取扱いの比重が増したりする可能性があることを、事前にお断りしておく。	未曾有の変革期であった明治以降の近代という時代において、小説を中心とする文学というものが、我々日本人にとって、いかに重要な自己表現の手段であったかを、出来るだけ多くの作品を通して検証したい。			

日本文学史VI	前期に引き続き日本近代文学史を講述する。あくまでも予定であるが、以下、言及する項目を列挙しておく。	未曾有の変革期であった明治以降の近代という時代において、小説を中心とする文学というものが、我々日本人にとって、いかに重要な自己表現の手段であったかを、出来るだけ多くの作品を通して検証したい。			
日本文学特殊講義	今年度は現代文学について考えてみたいと思う。現代文学というのが、いったいいつからはじまり、21世紀の今、どのような様相を呈しているかということ講述する。現代文学を講ずる以上、いわば必然的に当初の予定はあくまでも予定でしかない。	この講義の最大の目論見は、日本文学、文化の現在を切り取ることにある。ある意味で、アクロバティックな内容にしたいと思っている。			
日本文学特殊講義	平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。	古典文学について研究・考察する力を身につける。			
日本文学特殊講義	[連歌俳諧史の諸問題]近世初期を主軸として、連歌から俳諧への変遷をたどり、その意義・その背景について考察する。室町期に最盛した連歌は、近世期に至り、形式はそのままに表現の方向性を転換させ、俳諧の成立・流行へと展開する。連歌と俳諧の両道に大成した西山宗因の問題を中心に、過渡期に模索された、伝統と革新のダイナミズムを探りたい。	1. 連歌・俳諧という日本固有の韻文の特性を理解し、それぞれの文芸を的確に読解する力を養成する。 2. 研究上の問題設定のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。			
日本文学特殊講義	歌人であり且つ似絵の名手としても知られた藤原信実の手になる『今物語』は、全53話という小品ながらも、貴族社会の風流譚・恋愛譚・滑稽譚等々、さまざまな説話を含み、文学史上でも特異な位置を占めた作品となっている。本講義では、この『今物語』の特質を紹介した上で、研究の現状と課題について講義を進めることにする。なお、授業形態は、テキストと資料プリント(講師の側で用意)を参照しながら、板書と口頭での説明を中心とした講義形式とする。	『今物語』を題材として、中世説話文学の特質を知ることが目標とする。			
日本文学特殊講義	『今物語』を題材として、中世説話文学の特質を知ることが目標とする。	まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、中原中也の作品の読解を通じて、中也の詩と詩想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深める。			
日本文学講読	谷崎潤一郎『夢喰ふ虫』を読む	本年度の講読は、いわゆる『私小説』を読みます。『私小説』とは日本のある種の小説に対してつけられた呼称ですが、多くの誤解に満ち満ちています。その誤解を解くべくじっくり読んでいきたいと思ひます。			
日本文学講読	大江健三郎『取り替え子(チェンジリング)』を読む	前期に引き続き、いわゆる『私小説』を読みます。『私小説』とは日本のある種の小説に対してつけられた呼称ですが、多くの誤解に満ち満ちています。その誤解を解くべくじっくり読んでいきたいと思ひます。			
日本文学講読	『蜻蛉日記』の講読。	古典文学について研究・考察する力を身につける。			
日本文学講読	『大鏡』の講読。	古典文学について研究・考察する力を身につける。			
日本文学講読	[西鶴『好色五人女』八百屋お七を読む]『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。実際に起こった五組の男女の事件に取材したモデル小説ではあるが、西鶴は、古典作品を利用した縦横な文体を駆使し、創作をふんだんに盛り込んで、切なくもおもしろい恋物語に仕立てている。本演習では、巻四『恋草からげし八百屋物語』前半部により、八百屋お七の恋のゆくえを精読する。	1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。			
日本文学講読	[西鶴『好色五人女』八百屋お七を読む]『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。実際に起こった五組の男女の事件に取材したモデル小説ではあるが、西鶴は、古典作品を利用した縦横な文体を駆使し、創作をふんだんに盛り込んで、切なくもおもしろい恋物語に仕立てている。本演習では、巻四『恋草からげし八百屋物語』後半部により、八百屋お七の恋のゆくえを精読する。	1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。			

日本文学演習	明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチャル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。	端的に言えば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。			
日本文学演習	明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチャル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。	端的に言えば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。			
日本文学演習(4年生)	卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。	この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。			
日本文学演習(4年生)	卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。	この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。			
日本文学演習(4年生)	平安文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。	平安文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。			
日本文学演習(4年生)	平安文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。	平安文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。			
日本文学演習	輪読形式による『源氏物語』の研究。	古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。			
日本文学演習	輪読形式による『源氏物語』の研究。	古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。			
日本文学演習	【『猿蓑』歌仙註釈】芭蕉七部集の第五、元禄四(1691)年刊行の俳諧撰集『猿蓑』所収の連句を註釈する。本書は、奥の細道行脚後に芭蕉が獲得した新風を世に問うべくして編まれ、発表後数年にして『俳諧の古今集』(『宇陀法師』)と評された。高弟たちを導く芭蕉の意欲を感じながら、蕉風俳諧の円熟を示す、巻五所収の歌仙「灰汁桶」の巻を精読したい。	1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。本巻には近世後期成立の『猿蓑箋注』をはじめとして多くの註釈が存在するが、それらを参看しつつ、且つ、従来の定見にとらわれない新たな読解を模索したい。 2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸 = 俳諧連句の作法と精神を知り、元禄文学の粹たる蕉風俳諧の到達点を感じ得る。			
日本文学演習	【『猿蓑』歌仙註釈】芭蕉七部集の第五、元禄四(1691)年刊行の俳諧撰集『猿蓑』所収の連句を註釈する。本書は、奥の細道行脚後に芭蕉が獲得した新風を世に問うべくして編まれ、発表後数年にして『俳諧の古今集』(『宇陀法師』)と評された。高弟たちを導く芭蕉の意欲を感じながら、蕉風俳諧の円熟を示す、「梅若菜」の巻を精読したい。	1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。本巻には近世後期成立の『猿蓑箋注』をはじめとして多くの註釈が存在するが、それらを参看しつつ、且つ、従来の定見にとらわれない新たな読解を模索したい。 2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸 = 俳諧連句の作法と精神を知り、元禄文学の粹たる蕉風俳諧の到達点を感じ得る。			
日本文学演習(4年生)	卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。	卒業論文執筆のための具体的な方法を習得する。			
日本文学演習(4年生)	卒業論文完成に向け、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。	卒業論文の完成を目指す。			
GP項目別到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)					
総合的GP到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)			卒業論文の内容に関する到達目標の達成度が基準に達していること。(到達度判定基準は別表)		

卒業論文の達成度判定基準

内容に関する到達度判定	
判定する項目	判定
検討中	検討中